

こころ（心）

平成30年11月15日発行

第 82 号

糸島市人権・同和教育
推進協議会 波多江支部
糸島市立波多江公民館
☎ 322-1614

～考えようお互いの気持ち、育てよう思いやりの心～

来月12月4日～10日は 人権週間です！

●人権とは

「自分も友だちも一人ひとりが違う」ことを知り、それぞれの違いを大切にすることを考える週間です。

「人権」とは、一人ひとりが生まれた時から持っている「自分らしく生きる」権利のことです。つまり、みんな生まれた時から「自分らしく生きてよいですよ」ということです。



校区文化祭での「雷山空襲」紙芝居の様子

●人権週間のおこい

第二次世界大戦はユダヤ人の他、少数民族虐殺、広島・長崎の被爆など、人類史上かつてない被害を残しました。国連は戦後の新しい世界平和を確立するために、人権擁護こそ平和の基礎であるという考えのもと、1948（昭和23）年12月10日、国連総会で世界人権宣言を採択し、1950（昭和25）年の国連総会で12月10日を人権デーと定め、全ての加盟国に実施を呼びかけました。

日本では1949（昭和24）年、法務省と全国人権擁護委員連合会が12月4日～10日までの一週間を人権週間と決めました。

みんながみんな違うように、全部が同じなんて誰もいません。一人ひとりが違いを認めたり、自分や友だちの良いところを見つめて、それぞれが大切な存在であることを知る一週間です。

市同協波多江支部では、人権映画祭を開催します。お誘い合わせて皆さまのご来場をお待ちしております。裏面の案内をご覧ください。

人権さんぽシリーズ⑩ 志摩歴史資料館

志摩地区は、古代から船で行き来して他の国や地域と交流を深め、発展してきました。そんな歴史が一目で分かるように、この資料館は「生活」「交易」「漁業」など8つのテーマに分けて展示しています。展示物は、実物の他に説明用の模型を用いられ、子どもから大人まで学習しやすくなっています。

古代人の製鉄や漁業、戦国時代以降の干拓の歴史など、当時の民衆の努力が伝わってきます。また、川邊里戸籍は紙に記された現存する日本最古の戸籍のひとつといわれています。ここでは、展示物を人権の視点から見てみましょう。

●糸島市志摩初1（電話 092-327-4422）
月曜休館

※詳細は資料館ホームページをご覧ください



★糸島 100 年 ～糸島新聞でみる郷土の一世紀～
と題して、志摩歴史資料館「秋の企画展」を開催中〈12月2日まで〉

〈裏面につづく...〉

人権映画祭

入場
無料

《きみはいい子》

社会の基本であるスキンシップを伴う1対1の人間関係が、
それを取り囲む1対多の人間関係に、知らず知らずのうちに侵されている。
この映画はエンドマークで終わらない。

——谷川俊太郎さん(詩人)



誰もが、人に傷つけられ、人に救われながら生きている。
人と人とのつながりから生まれる
ささやかな「しあわせ」を描く、再生と希望の物語。

まじめだが優柔不断で問題に真っ正面から向き合えない
小学校教師・岡野。

自分の娘に手をあげ自身も親に暴力を振るわれていた
過去をもつ雅美。

認知症の兆しにおびえる独居老人・あきこ。

悩みや問題を抱えながら生きる彼らが、さまざまな局面で
交差しながら、人と人とのつながりに光を見だし小さな
一歩を踏み出すさまを丁寧に映し出す。



かつて子どもだった
すべての人に――。

監督：呉美保 出演：高良健吾 尾野真千子 池脇千鶴 高橋和也 他

日時 平成30年12月9日(日) 10:00～

場所 糸島市立波多江公民館

主催 糸島市人権・同和教育推進協議会 波多江支部